

リデュース ヨコハマ R 委員会 第 10 回全体会議

日時：平成 27 年 6 月 30 日(火)

10：00～11：30

場所：松村ビル本館地下 1 階会議室

出席委員：21 名

1 開会あいさつ (3 R 推進課長)

この委員会以外にも、皆様各界の方からご出席いただいている中で、資源循環局全体としても、いろいろお知恵を拝借しご協力をいただいております、重ねてお礼を申し上げたい。

皆様から貴重なご意見、忌憚のないご意見をいただきながら進めていければと思っています。今回は 3 月にお願いしたアンケートでご意見を挙げていただいたものを中心に、意見交換をお願いしたい。

2 委員長あいさつ (委員長)

この委員会も 10 回になり、横浜市のリデュースの取組は日本に対して模範になる取組であり、この委員会からもたくさんのアイデアがでてきたと思う。お祭りで食器をどう使っていくか、食品ロス削減に関するスタイリッシュな DVD を作るなど、それは形になったと思う。更なる取組が必要だと思うが、そのためには皆様方からのアイデアが横浜のリデュースを進めていくと思うので、是非とも今年度も良い知恵を出していただきたい。

3 委員紹介

(事務局からの報告)

- ・委員交代に伴う新委員の紹介 (横浜十店会様、横浜市資源循環局企画調整担当部長、横浜市環境創造局政策課長)

4 議事

(1) 副委員長の選出について

- ・委員の互選により市民委員 1 名を選出

(2) 報告事項

- ・「マイボトルスポット」の取組状況について (資料 1 のとおり報告)
- ・「リユース食器」の広報について (資料 2 のとおり報告)

「環境絵日記展」について、委員より報告 (別添資料のとおり報告)

(報告事項に関する質疑応答)

【マイボトルスポットスタンプラリーについて】

委員：昨年の景品の反応と今年の景品内容は。

事務局：ペットボトルを袋に入れて「マイボトル」と言うなど、まだまだマイボトルの普及が進んでおらず啓発が足りないと感じたが、景品の反応は良かった。

(その他、景品についての意見)

タオル、エコバッグであれば使い勝手の良いもの、ボトルブラシや洗浄剤などマイボトルに関連するもの。

【環境新聞について】

委員：どうしたら記事が採用されるのか。

事務局：この新聞は紙面の買い取りで載せており、今回は最近取り上げていなかったリユース食器にした。

【リユース食器について】

委員：26年度のリユースカップ利用実績は14万個で、民間企業での紙コップ代用を含めると、約30万個。周囲で使ってもらえるところがあれば、公社に連絡をいただきたい。もう一つ、NPO法人Waveという組織も青葉区で活躍しているので、うまく連携しながらやっていく。

(3) 平成27年度の活動について

- ・提案①②③について提案者より説明

食品ロス削減、小さな単位での話し合い、リユース食器の利用実態・検証、在庫物品を活用した取組

- ・提案④について提案者より説明

容器包装自体の意義

- ・提案⑤について提案者より説明

容器包装の基礎的な相互理解

(その他、提案に対する意見)

- ・この委員会は、市民提案がきたものに対して支援するというのが大前提。
- ・出前講座などの反応から「手つかず食品」の情報発信をしたい。
- ・容器包装については、技術的なことなのでわからない。
- ・資源循環局としては食品ロスとか手つかず食品はタイムリーである。
- ・食品ロスについては、無駄なものは買わないということの他に、買ったものを正しく使い切るということもある。そこには容器包装の問題が貢献しており、容器包装の技術が進んでいるからこそ、賞味期限や消費期限が延びている。テーマの拡がりとしてはいろいろな方向性があり、新しい情報、新しい知識を得て、わかりやすい広報のあり方について考える。
- ・食品ロスでは会議の仕組みを変えて、ワールドカフェスタイルのように話し合うとか、テーマを決めて話し合う。
- ・リユース食器の現在の実績等の報告と、利用者アンケートの分析内容がまとまったら、それもあわせて報告したい。
- ・市民から意見が上がってこないのであれば、提案どおりいろいろ話してくれそうな人に参加してもらい、事業をPRしながら、自由な意見交換の場を設けて、そこから意見を吸い上げ、この委員会とは別に実施し、意見を募ったらどうか。
- ・市民や生活者からの意見に対してどう答えるかというところにこの会の意義があると思うので、そのなかで包装技術とか包装の役割とかについて話す。生産者は生活者とか流通との接触がないので、是非その辺の意見を聞きたい。
- ・容器包装の技術の向上があるが、会社としてそういった情報というものをまだまだ取り込めきれていない。例えばそういうところからごみを減らすということはできるので、事業者と市民にわかれて話し合いをした中で、最終的に削減ができる取組があれば良い。

- ・使い切りレシピなどをホームページや情報紙に広報していくことならすぐにできると思う。
- ・市民にとっても、リデュースの意味合いがまだ定着していない。環境配慮、リデュースというのが何か、例えば食品ロスの問題や容器包装の問題など、いろいろあると思うが、それを一度きちんと議論した方が良い。フォーマルな形ではなく、検討会というのも含めた委員会として、自由出席ということで構わない。そういう形で事務局にまとめていただきたい。もう一つは、この委員会だけでも10回だし、それを整理することも重要だと思う。そして、それをホームページの中できちんと検索できるようにしておくというのも一つの成果かもしれない。そういうアイデアを事務局で受け止めていただき、どうするかを検討いただけないか。近いうちに良い形で議論できる場をもっていただきたい。

5 情報提供 等

- ・6月の環境月間の取組について（資料4・5のとおり説明）
- ・エコ・クッキング講座の開催について（資料6のとおり説明）
- ・ヨコハマ3R夢！広報大使との取組報告について（資料7のとおり説明）

6 その他

（事務連絡）

- ・「口座振込依頼書」の提出を依頼。
- ・次回の全体会議は28年1月から3月に開催予定。詳細については別途案内する。

7 閉会あいさつ（企画調整担当部長）

本日はいろいろなご意見をいただいた。事務局としても、いただいた思いを受け止め、今後どういう形で進めればいかによく話し合いたい。この場にいらっしゃる方々は、様々な分野の専門家である一方で、地域の皆様は本当に3Rという言葉を知らない方もいる。その間をどういう形をつなぎとめていくかということが大事だと思う。また我々、ともすれば行政というものは一方向的なPRとか啓発とかに終わってしまいがちだが、こういう場を通じて双方向のやりとりができると市民の皆様に実感していただけるような啓発ができると思い、次の活動につなげていきたい。

第 10 回

リデュース ヨコハマ R 委員会 全体会議

日時：平成 27 年 6 月 30 日(火)
午前 10 時から
場所：松村ビル地下 1 階会議室

次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員紹介 【委員名簿】
- 4 議事
 - (1) 副委員長の選出について 【ヨコハマ R 委員会設置要綱第 3 条第 2 項】
 - (2) 報告事項
 - ・「マイボトルスポット」の取組状況について 【資料 1】
 - ・「リユース食器」の広報について 【資料 2】
 - (3) 平成 27 年度の活動について 【資料 3】
 - ・委員からの提案内容について
- 5 情報提供 等
 - ・6 月の環境月間の取組について 【資料 4、5】
 - ・エコ・クッキング講座の開催について 【資料 6】
 - ・ヨコハマ 3 R 夢！広報大使との取組報告について 【資料 7】
- 6 その他
- 7 閉会あいさつ

「マイボトルスポット」の取組状況について

1 趣旨

平成 22 年 10 月に取組を開始した「マイボトルスポット」について、これまで公共施設、チェーン系カフェ、民間施設など徐々に登録数を増やしてきましたが、現在の取組状況について報告します。

2 マイボトルスポット設置状況

平成 27 年 3 月 1 日時点				平成 27 年 6 月 30 日現在			
施設等	カフェ	コンビニ	合計	施設等	カフェ	コンビニ	合計
126	103	89	318	129	103	89	321

スタンプラリーの開催予定について

- ・マイボトルの利用を呼びかけるためのイベントとして、昨年度に引き続きマイボトルスポットに登録されている「横浜山手西洋館」でのスタンプラリーを 11 月上旬に開催する予定です。

【参考：昨年度実施状況】

(1) 開催日時

平成 26 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）
両日とも 9 時 30 分～15 時（受付時間は 9 時 30 分～12 時）

(2) 開催場所

横浜山手西洋館のうち、「マイボトルスポット」に登録している全 7 館
（横浜市イギリス館、山手 111 番館、山手 234 番館、エリスマン邸、
ベリック・ホール、外交官の家、ブラフ 18 番館）

(3) 受付場所

横浜市イギリス館、ブラフ 18 番館

(4) 内容

マイボトルを持参してご参加いただき、開催場所内の「マイボトルスポット」で、専用のスタンプカードに押印をした後、スタンプが貯まったら、先着で景品を進呈します。

スタンプ 7 個すべて集めるとエコバッグ、5 個以上でミニタオル

(5) 受付人数（開催二日間の合計）

受付場所	人数
横浜市イギリス館	107
ブラフ 18 番館	141
合計	248

(6) 景品引換人数

	15 日（土）		16 日（日）		合計
	エコバッグ	ミニタオル	エコバッグ	ミニタオル	
横浜市イギリス館	54	1	74	2	131
ブラフ 18 番館	40	2	37	8	87
合計	94	3	111	10	218

(平成 27 年)
2015.6.16(火)

企業・団体の取り組み
07

使えば使うほど「エコ」になる! 「リユース食器」にシフトしよう

横浜市では、使い捨ての容器の利用から、繰り返し使うことでごみを減らせる「リユース食器」へのシフトを呼び掛けています。リユース食器とは、主にイベントに使われるもので、1回使っただけで捨てられてしまう容器の代わりに、洗って再利用(リユース)できる食器のことです。食べ物などを使い捨て容器で提供すると、イベントのごみの大部分を使い捨て容器が占めて

用途に合わせた多種多様なリユース食器



しまいますが、リユース食器を導入することで、ごみを大幅に削減することができます。

横浜市が、リユース食器を使ったイベント(2012年、ほどがや区民まつり)で算出したデータによれば、45kgのごみ袋で約26袋分のごみを削減。これは温室効果ガス(CO₂)を約100*%削減したことになり、横浜から名古屋まで自動車で行ったときに排出される

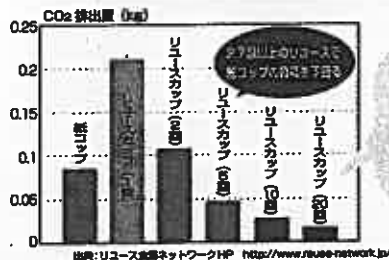
CO₂量に相当します。

このリユース食器は、貸出しをしている団体もあり、そこからレンタルできます。詳しくは各団体webサイトをご覧ください。

●公益財団法人横浜市資源循環公社(中区)
<http://www.shigenkousha.or.jp/index.html>

●NPO法人Waveよこはま(青葉区)
<http://reuse-wave.sakura.ne.jp/>
(6月は初めての方限定で料金半額実施中)

リユースカップと使い捨て紙コップとの環境負荷の比較



洗うときの食器を
含めて計算しても、
リユース食器は
こんなに「エコ」!

横浜市資源循環局

〒231-0013 横浜市中区住吉町1-13
TEL.045-671-3593 <http://www.city.yokohama.lg.jp/shigen/>

1 メッセージ

- 黒岩 祐治 神奈川県知事
- 林 文子 横浜市長
- 福田 紀彦 川崎市長
- 加山 俊夫 相模原市長

2 水素エネルギー協会

「水素社会」が動き始めています

- 温室効果ガスを排出しない、クリーンで安全なエネルギー
- FCV が本格的に市場に出回るの

3 企業・団体の取り組み

富士通ゼネラル	環境性能が優れた「ノクリア」Xはハイブリッド気流で快適空間を提供します
栄港建設	「オフグリッドハウス」を推進し、地球環境に配慮した豊かな家づくりを提供します
JA横浜	さまざまな役割を果たす農業をJA横浜は応援します
アマダグループ	アマダグループは「エコでつながるモノづくり」をスローガンにお客さまと社会、そして世界とつながる企業をめざします

4 企業・団体の取り組み

京急百貨店	エコマーク認定百貨店として～お客さまと一緒に、環境に配慮した活動を推進します～
イオンリテール	完全養殖にこだわった「トップバリュグリーンアイ 竜巻うまれ生本まぐろ」を発売しました
横浜市資源循環局	使えば使うほど「エコ」になる「リユース食器」にシフトしよう
ツルミ印刷	「クリオネマーク」の認定を受け、環境配慮印刷を推進しています。デジタル印刷を導入し、多品種少量生産にも対応します

5 企業・団体の取り組み

日立ソリューションズ・クリエイト	豊かな地球を未来へわたそうと、里山・緑地保全活動に取り組んでいます
太陽油脂	本格オーガニックの「素肌レシビ」は安全性の追求を徹底しています
メルク	国内最大級となる地下熱を利用した高効率の空調システムを導入しました
カナエル	コンセプトは「自然環境につなぐ」自然を活かした社農作りを実現しました
神奈川県JA	神奈川県JAは、農業を通じた環境教育や環境に配慮した取り組みを行っています

「環境」月「間」

環境庁(現・環境省)の提唱により、1973年度から90年度実施された、6月5日を初日とする「環境週間」が前身。91年度からは、6月の1か月間を「環境月間」とし、環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするためのさまざまな行事が行われている。

平成27年度の具体的な取組の検討の提案結果について

No.	提案委員	具体的な取組案	備考
1	アースgreenつるみ 加藤 玲子	<p>提案1・食品ロスについてさらに、検討会議にて話し合う（調査、検証、発表） →ミニ情報誌（チラシ）の配布かツイッターで拡散。 * 食品ロスを出さない・というより、今（自分の家庭や職場の現状）より食品ロスを少なくしていこう！を目標にできたらどうか？</p> <p>提案2・リユース食器使用の検証、調査 実施しているところとしていないところの違いなど、具体的な調査をする。 なぜ使われないか？検証など。</p> <p>提案3・4人以外の区のイベントでの小規模なリデュースエコグッズ展示（クイズなどによる啓発も）、クイズなどによるリデュースの啓発活動、リデュース委員会のPR、啓発チラシの配布などを、11月か、12月初めに開催。 エコグッズに関しては、以前横浜そごうでイベントを開催した時のグッズが残っていると思うので、それを活用、+α現在の新エコグッズを買い、展示PR。</p> <p>提案3については、4人以外の参加者もつり、事業者さんもなにか参加できるような企画やPRも含めて内容を詰めて実践していければと思います。 みなさん忙しいので、無理なく小規模で活動を続けていけるスタイルにしたい。</p> <p>提案1, 2については、並行して検討会議で、市側からの情報も含めて、三者でまず議論を深めたらどうか？ それには、会議の方法も、少しざっばらんに話し合えるように、工夫する。 また、市側、市民委員も含めて、事業者さんも、一市民として、もっと活発な意見や提案がほしい。 こんな意見を出せるような会議とは？ 例えば3者をごちゃ混ぜにして、例えば・お父さんお母さんの立場になって、一市民として、話し合える会議など。（人数は少なく） 食品ロスのプロジェクトでは、そうでした。 また、女同士、男同士に分かれるなどの工夫。 まず、楽しい会議を進める。そんな中から、いい意見が出ると思います。 この意見は、委員会当初から出しています。</p>	市民委員渡辺、蟹沢、坂本、加藤でのリデュースサークルとして、話し合いを始めました。何が出来るか？
2	よこはま一万子育てフォーラム 坂本 寿子	<ul style="list-style-type: none"> ・R委員会等での取組内容やプロジェクトの地域への啓発活動 ・環境にこだわった便利グッズなどの紹介や調査など 	
3	「ヨコハマ3R夢」保土ヶ谷区推進本部委員 渡邊 廣子	<p>1、情報提供として頂きたい リユース食器プロジェクトにより「リユース食器導入の手引き」を作成したが、その後各区、その他イベントで利用されたと思うが、利点、課題も含めて情報を頂きたい。便利さから安い物で対応してしまう傾向がある、課題があれば検討し、更なる働きかけにつながるのではないかな？</p> <p>2、「ヨコハマR委員会」の啓発活動 以前 そごう前ひろばでのイベントを実施したが、一部の人への負担や予算面でも課題であったが、アピールとしては非常に効果を見る事が出来た。 現状は、ウェブサイト等では発信されているが、見る人は一部である。更なる広がり、一般市民への啓発としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年度実施されるイベントに参加(市開催のイベント、区民まつり、その他) ・委員会の活動紹介と委員による各々の情報アピール(パネル展示、映像等) ・便利グッズの展示 ・アンケートをとる 	
4	公益社団法人日本包装技術協会 平井 純一	<ul style="list-style-type: none"> ・生活とパッケージ <p>環境配慮、高齢化社会、食品の安全、「もったいない」など、現在の日常生活のなかでとりわけ関心の深いことをパッケージの実例をもとに紹介する等。 対象：横浜市R委員会、イベントのなか等ご紹介</p>	今迄の活動とニュアンスが違うかもしれませんが、包装技術協会として、紹介できることを提案しました。
5	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 久保 直紀	<p>ちなみに容器包装に関する法律見直しの審議（現在進行中）では、リデュース・環境配慮設計への取り組みが大きな論点として挙げられています。 そのキーワードは、主体間連携、情報公開・普及啓発などですが、それらをどう具体化するか、そのプランは、これから議論です。 ただ、市民、自治体、事業者（製品や容器包装を作る事業者、それを小売りする事業者、リサイクルする事業者など様々な事業者があります）の情報公開、連携が重要との認識で一致しています。</p> <p>課題として挙げれば、リデュースとはなにか、環境配慮とはどういう事か、と言う議論はまだまだ不十分と痛感しています。 そうした点から考えれば、委員会に参加されている市民、自治体、事業者のみなさんが、基本的な情報共有・学習を行い、それらをひろく市民に情報提供・啓発する中から、具体的な取り組みを見出して行くことが大切ではないでしょうか。 どちらかと言うと、即物的、具体的な活動に視点行きますが、その前提となる基礎的な情報共有を課題にするのは、如何でしょうか。</p>	<p>・私ども取り組みでは、各主体（市民、自治体、事業者）との意見交換（小人数で双方向の意見交換を行い、相互理解を深め、そこから具体的なテーマを得る）や、市民に方々が関心を持っている課題について情報提供する、などです。 参考までに、当協議会のHPにアップしている資料のURLを添付します。 意見交換会 http://www.pprc.gr.jp/activity/seminar/meeting20141128.html http://www.pprc.gr.jp/activity/seminar/meeting20150130.html</p> <p>その他、情報など http://www.pprc.gr.jp/about/pamphlet.html これはプラスチックやプラ容器包装の製造から廃棄までを簡単に解説。 http://www.pprc.gr.jp/recycle/separate-collection.html 分別排出するための知恵（市民の皆様から頂いた情報。</p>

平成 27 年 5 月 29 日
温暖化対策統括本部調整課
環境創造局政策課
資源循環局 3 R 推進課

“環境に優しいまち・横浜”の実現に向けて！

～横浜 DeNA ベイスターズの選手が、これからの横浜を思いメッセージを発信します～

横浜市では6月の環境月間にあわせ、環境に優しいまちの実現に向け、環境行動を呼びかけるイベントの開催やポスター掲出による普及啓発を行っています。

昨年に引き続き、横浜 DeNA ベイスターズの選手にご協力いただき、家庭でのエコ活動、横浜の緑の大切さ、手つかず食品の削減など、誰にでも簡単に取り組めることや、あらためて考えてもらいたいこと、実践してもらいたいことについて、メッセージを発信し、環境に優しい行動を呼びかけていきます。

1 ポスターイメージと呼びかけ内容



使わない電化製品の電源を切る、家庭の電球をLEDに替える。誰にでもできる“ちょっとしたこと”からみんなでエコ活動をはじめましょう。

横浜市温暖化対策統括本部

I ☆ YOKOHAMA

使わない電化製品の電源を切る、家庭の電球をLEDに替える。

誰にでもできる“ちょっとしたこと”からみんなでエコ活動をはじめましょう。

(山崎康晃選手・背番号19・投手)



横浜には市民の森など、散歩を楽しめる緑の環境が多くあります。森の中を歩くことを通じて、横浜の緑を守り、育てていくことについて考えてみませんか？

横浜市緑創出課

I ☆ YOKOHAMA

横浜には市民の森など、散歩を楽しめる緑の環境が多くあります。

森の中を歩くことを通じて、横浜の緑を守り、育てていくことについて考えてみませんか？

(関根大気選手・背番号63・外野手)



燃やすごみの中には、期限切れなどで捨てられた「手つかず食品」が多く含まれています。食材の期限を確認し、手つかず食品の削減を心掛けましょう。

横浜市資源循環局

I ☆ YOKOHAMA

燃やすごみの中には、期限切れなどで捨てられた「手つかず食品」が多く含まれています。

食材の期限を確認し、手つかず食品の削減を心掛けましょう。

(倉本寿彦選手・背番号5・内野手)

※区役所等の公共施設や市立学校（小・中・高・特別支援学校）など、約800箇所に配布します。

2 音声について

横浜 DeNA ベイスターズの3選手のメッセージ(音声)を市営地下鉄関内駅などで放送します。

(1) 放送内容の一例

ア 山崎康晃選手

使わない電化製品の電源を切る、家庭の電球をLEDに替える、これもエコ活動です。ちょっとしたエコ活動の積み重ねが、地球を守ることに繋がります。

イ 関根大気選手

横浜には、ハイキングに出かけられる市民の森や、ふるさと村があります。皆さんも、まずは森の中を歩くことから緑の大切さを考えてみませんか。「みどりアップ」を合言葉に、横浜の緑を守り、育てましょう。

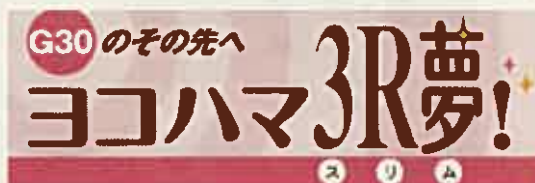
ウ 倉本寿彦選手

ご家庭から出されている燃やすごみの中には、期限切れなどで捨てられた「手つかず食品」が多く含まれています。食材の期限を確認し、手つかず食品の削減を心掛けましょう。

(2) 放送予定場所

- ・市営地下鉄関内駅：6月1日～30日 8時～9時、18時～19時 ※1日は夕方のみ
- ・市庁舎：6月1日～29日(月・水・金) 11時50分頃～(1種類、1分程度)

※ 環境月間とは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、国連は6月5日を「世界環境デー」とし、わが国でも環境基本法(平成5年)で6月5日を「環境の日」と定め、この日を含む6月を「環境月間」としています。本市としても、この環境月間を機に、市民、企業、学校、行政等があらためて環境問題について一緒に考え、これからの行動につなげていけるよう、環境に関する普及啓発を進めています。



お問合せ先

温暖化対策統括本部調整課長	伊藤 友道	Tel 045-671-4108
環境創造局政策課 環境プロモーション担当課長	遠藤 寛子	Tel 045-671-3830
資源循環局3R推進課長	河村 義秀	Tel 045-671-2563

※ポスターイメージをご希望の方は、お問合せ先までご連絡ください。

6月は環境月間 ヨコハマらしく、かっこよく。 市内イオン6店舗で簡易包装推進キャンペーンを同日開催します!!



横浜市とイオン株式会社は、平成 24 年 5 月 9 日に締結した「包括連携協定」において、生鮮食品のバラ売りや詰め替え商品などの簡易包装商品の利用を進める取り組みを共同で行うことを取り決めました。今年も6月の環境月間に合わせて、簡易包装商品の販売キャンペーンを行うとともに、横浜市でも3R※に関する啓発キャンペーンを市内イオン6店舗で行います。

※3Rとは、Reduce(リデュース：発生抑制)、Reuse(リユース：再使用)、Recycle(リサイクル：再生利用)の頭文字をとった循環型社会を構築していくためのキーワードです。

開催日

6月13日(土)

※開催時間は店舗ごとに異なりますので、裏面をご覧ください。



開催場所 (市内イオン6店舗)

東神奈川店・駒岡店・横浜新吉田店・
本牧店・金沢シーサイド店・天王町店



店舗名(所在地)・開催時間・啓発キャンペーン内容

店舗名(所在地)	開催時間	啓発キャンペーン内容
イオン東神奈川店 (横浜市神奈川区富家町1)	10:00~15:00	ごみの分別ゲーム、イーオ登場、3R夢カー展示、風呂敷の包み方講習会など
イオン駒岡店 (横浜市鶴見区駒岡5-6-1)	10:00~12:00	生ごみ水切り実演、イーオ登場、分別相談コーナーなど
イオン横浜新吉田店 (横浜市港北区新吉田東8-49-1)	10:00~15:00	お絵かき缶バッジ制作、啓発パネル展示など
イオン本牧店 (横浜市中区本牧原7-1)	13:30~15:45	ごみの分別ゲーム(マイバッグプレゼント)、イーオ登場など
イオン金沢シーサイド店 (横浜市金沢区並木2-13-1)	10:00~11:30	ごみの分別ゲーム、ハッピーワオン登場、分別相談コーナーなど
イオン天王町店 (横浜市保土ヶ谷区川辺町3)	10:00~14:00	分別クイズ、イーオ登場、3R夢カー展示など

全店舗取材可能となります。お問合せの際は、直接店舗へお越しください。

(裏面あり)

内容

3Rに関する啓発キャンペーン

- ◆マイバックによるお買いもの啓発
- ◆生ごみ水切りの実演、パネルを用いた啓発
- ◆ごみの分別ゲーム（オリジナルマイバックをプレゼント）
- ◆食品ロス削減の啓発
- ◆イーオやハッピーワオンによる3Rの呼びかけ
- ◆3R夢カー（イーオなどがデザインされたラッピング収集車）
- ◆風呂敷の包み方講習会実施



簡易包装商品などの店頭販売キャンペーン

- ◆野菜・果物・魚のバラ販売などの簡易包装商品の特設ディスプレイコーナー
- ◆詰め替え商品やリサイクル商品のポップを使っての販売促進
- ◆マイバッグ・マイボトルの拡大販売キャンペーン



G30 のその先へ ヨコハマ3R夢! スリム

お問合せ先

資源循環局 3R 推進課長 河村 義秀 Tel 045-671-2563

エコ・クッキング講座の取組について

実施日：平成 27 年 6 月 23 日・24 日

7 月 14 日・8 月 4 日

場所：東京ガス横浜ショールーム (MARK 1S)

参加者：各区の環境推進委員・消費生活推進員

1 概要

生ごみには、調理くずや食べ残し、手つかず食品などがあり、それらを減らすための調理の知識を市民に学んでいただき、地域に広めていただくことを目的として、東京ガス株式会社と連携して、エコ・クッキング講座を開催しております。

昨年度は初年度ということで、試験的に 4 区のみを対象に実施いたしましたが、今年度は、より多くの地域の方々に食品ロスへの理解を深めていただくため、全区を対象に行っております。

2 当日の様子

- 啓発動画視聴 -



ヨコハマR委員会で作成した「食品ロス削減啓発動画」と、その後の座学に真剣に耳を傾ける参加者。時折、メモを取りながら動画を視聴されている方もいらっしゃいました。

- エコ・クッキング実習 -



調理講師の実演後、実習へ。ムダ無く効率的な調理をするために、各班一人ひとりが協力し合っていました。

- 実食 -



いざ、実食。メニューはあまり馴染みのないベトナム料理でしたが、皆さん食べられる方がフォローし合いながら完食されていました。

- まとめ・反省会 -



食事後には、各班が調理と片づけにどれくらいの水とガスを使ったかがまとめられた表が配られ反省会。節水がうまく出来た班とそうでない班の使用量では 10 倍近くもの差が出ました。

市資源循環局

4/3
9/1 ニュース

ごみ収集車で「3R夢」啓発

マリノスとコラボ

市資源循環局は、横浜市が推進する「ヨコハマ3R夢」の広報大使として活動する横浜F・マリノスと



のコラボマグネットをこのほど作成し、15日、同局港北事務所で発表した。同フロンは、市がごみと資源の総量削減やごみ処理時に排出される温室効果ガス削減のために取り組む環境行動。3Rはリデュース(ごみそのものを減らす)、リユース(何度も繰り返し使う)、リサイクル(分別して再び資源として利用する)の

頭文字をとったもの。当日は葛西光春局長と、マリノスから富澤清太郎選手が参加。横浜F・マリノスは、ヨコハマ3R夢を応援しています。」と書かれたマグネットを葛西局長、富澤選手がごみ収集車に貼りつけるセレモニーを行った。市内には18収集事務所があり、ごみ収集車652台を含む関係車両全791台に張り付け、広く広報する狙いだ。

葛西局長は「順調にごみ削減が進んでいる。毎日市内を走る収集車でPRを推進する」とコメント。また、「多くの子どもたちに、少しでも意識を持ってもらえようになれば嬉しい」と富澤選手は話した。

全ごみ収集車

「3R夢」PR

マリノスと市コラボ

横浜F・マリノスは16日、横浜市内のごみ収集車全791台を通じ、市のごみ減量化・資源化運動「ヨコハマ3R夢!」をPRする



る協力を始めた。収集車に「横浜F・マリノスは、ヨコハマ3R夢!」の文字を応援しています。」の文字とクラブキャラクターのマリノスケなどが描かれたマグネット(15センチ×40センチ)を張って市内を走らせる。同市資源循環局港北事務所(15日、スタートセレモニーを開催。地元出身の富澤清太郎選手とマリノスでも参加した)写真。

富澤選手は「街で収集車を見かけるたび、ごみ減量化について考えるきっかけになってくれれば」と話した。同クラブは同運動の広報大使を務めている。

■ステッカーにマリノス、ゴミ減量アシスト

4/6 朝日



横浜F・マリノスは、ヨコハマ3R夢!を応援しています。



横浜市と横浜F・マリノスがコラボして作ったごみ減量を呼びかけるステッカーの披露式が15日(あり、マリノスの選手も参加した。「横浜F・マリノスは、ヨコハマ3R夢!を応援しています」と書かれたステッカーで、

市のごみ収集車など約800台に貼ってリサイクルを呼びかける。同市内で開かれたセレモニーには、マリノスの富澤清太郎選手(22)が参加。富澤選手は「生まれ育った横浜の環境づくりに貢献したい」と話した。